

## 第2部 サンゴ礁生態系の保全及び持続可能な利用の理念と目標

### 第1章 4つの理念

石西礁湖のサンゴ礁生態系の保全及び持続可能な利用は、新・生物多様性国家戦略に掲げられた4つの理念を踏まえてすすめていきます。

#### 1 人間生存の基盤

地球上の生物は、生態系というひとつの環のなかで深くかかわり合いつながらりあって生きています。サンゴ礁も我々が暮らす島を作るほか、水質浄化機能、気温湿度の調整など様々な働きをして、人間という存在にとって欠くことのできない基盤を整えているのです。

#### 2 世代を超えた安全性・効率性の基礎

サンゴ礁の保全は、トータルで長期的な安全性、効率性を保証することになります。

例えば、サンゴ礁は自然の防波堤の役割をはたし、人々を災害から守っています。サンゴ礁を保全することは30年から50年先、さらに世代を超えて人間生活の安全を保証することになり、長い目で見れば、最も効率的な方法でもあるのです。

#### 3 有用性の源泉

私たちの暮らしは、サンゴ礁の魚介類を食品として利用するだけでなく、建築材料などに利用することによって成り立っています。また、サンゴ礁の多種多様な生物はバイオテクノロジーのさらなる技術進展によって、新たな医薬品や食料開発に役立つことが期待されています。

また、美しいサンゴ礁の海は、ダイビングやグラスボートなどのレクリエーションの場などの観光資源として地域経済を支えています。

さらに、近年は環境教育の場としての活用が期待されています。

このようにサンゴ礁の海は人間にとって有用な価値の源泉となります。

#### 4 豊かな文化の根源

日本人は、自然と順応して様々な知識、技術、豊かな感性や美意識をつちかい、多様な文化を形成してきました。ここ八重山でも、上布の海晒し、アンパヌヌミダガマユンタをはじめとする民謡、サンガチの浜下りなど自然と密接に結びついた豊かな文化が今も生きており、今後も文化、芸術の発展に欠かすことのできない資源です。

多様な生物や文化は地域ごとの固有の資産であり、今後の地域活性化を成功させるためにも重要なカギとなるでしょう。

## 第2章 マスタープランの目標と未来の石西礁湖イメージ

第2章で述べたように、石西礁湖のサンゴ礁生態系は多くの危機に直面しており、将来にわたって4つの理念を踏まえた形での保全と利用を行うために、石西礁湖の保全と自然再生を進めていきます。

[今後、長期、中期、短期それぞれの具体的な再生目標について、自然再生専門委員会とワークショップで検討していく]

石西礁湖の自然再生は、これまでの人間による影響を取り除き、過去に損なわれた自然を取り戻すことを通して、地域の生態系が自己回復できる活力を取り戻すことを基本とし、自然の再生力を補助的に手助けする形で修復事業を導入します。

再生の目標は、人為的な比較的軽微だったと考えられる1972年の本土復帰当時としますが、当面は現状より悪化させないことを目標に取り組みを進めていきます。

自然再生に取り組むわたしたちの未来の石西礁湖のイメージを描いてみましょう。

「山と森と海と人々がつながり、岸近くにもサンゴが育まれている。すきとおった海のなかを、クジラブッダイが群れ泳ぎ、ギーラが湧き、サンゴのお花畑が咲き誇っている。」